

とままえ

12

No.592



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちびと 百景

町民舞台発表会盛り上げた！

11月6日(土)に公民館で開催された町民舞台発表会は、苫前っ子が大活躍。

学芸会で実施された花笠音頭、ラインダンス、よさこいが、学校ステージの約2倍もある公民館ステージで照明を浴び、披露された。

キレがありそろった動き、大きな掛け声が、観客を舞台に引き込み、大きな拍手と声援が飛んでいた。

住民に、マチに元気を与えるすばらしい踊りだった。

- 苫前町表彰式…2
- 町民作品展・図書室フェスほか…3
- とままえ町民講座・こども料理教室ほか…4
- 小学校フェス・おゆうぎ会ほか…5
- 除雪業者決定・地域社会貢献事業ほか…6
- 年末年始の町内各施設・機関…7
- 健康ばんざい…8
- 学びの広場…9
- 国保ガイド・介護保険Q&A…10
- 国民年金・川柳…11
- 住まいる情報…12～13
- 公民館フェスギャラリー…14

まちの人口

人口/3,627人 (男/1,698人：女/1,929人)
世帯数/1,638世帯 (11月30日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

苦前町一三〇年記念式典

平成二十二年 苦前町表彰式

平成二十二年 苦前町表彰式が、十一月三日の「文化の日」にあわせて「とままえ温泉ふわつと」で挙行された。

本町の発展の礎となられ、各分野においてご尽力された受賞者の方々に、心からの賞賛と感謝の言葉を町民の皆様とともに捧げ、祝福申し上げます。

この表彰は、政治、経済、教育、文化、スポーツ、福祉などの各分野で功績のあった方々をはじめ、永年勤続者で業務に精励された方、多額の寄附をされた個人や団体などを表彰するもので、本年度は町一三〇年記念式典も併せて挙行された。

表彰式では、森町長より「幾多の困難を克服し、今日の隆盛の基礎を築いた先人の不撓不屈の精神と努力に対し心から感謝を捧げるとともに、その開拓精神に学び、英知と郷土愛を引き継ぎ新しい歴史を築いてゆく」と決意を述べた。

今年度は、町一三〇年記念として、本町の振興発展に多大なる功労を尽くされた三十六名の方の顕彰を行った後、平成二十二年の表彰として、自治、社会保健功労者として二名に功労表彰、自治、社会福祉、防災関係における勤続者四名に勤続表彰、町の公益のため、多額の金品の寄附をされた一名に善行表彰を、そして町政振興のために寄附をされた四名に感謝

状を授与した。

また、町内に八十年以上在住し、家業等を通じ町の発展に貢献された三十三名にも感謝状と記念品が授与された。

星野恭司町議会議長は「顕彰並びに表彰を受けた方々の長年のご尽力ご苦勞に敬意と感謝を申し上げます。経済の低迷などから社会の閉塞感が深まり、厳しい状況だが、課題克服に向け町・議会・住民が一体となつて知恵を出し合い、地域主権型社会の実現に向け大きく前に踏み出す必要がある。皆様には更なるご支援とご協力をお願いいたします」と祝辞を述べた。

受賞者を代表し功労表彰を受賞した野崎信輝さんは「身にあまる光栄であり、お礼申し上げます。本町の礎となつた先人の尊い功績と偉業に敬意を表しながら、苦前町のために微力を尽くしていきたい」と感謝の言葉が述べられた。

受賞者は、次のとおり。

(敬称略)

苦前町130年記念顕彰

〔自治功労顕彰〕

杉野 廣美・星野 恭司・小松谷 悟・森 晃一
柴田 文夫・林 秀行・小野 善市・故 浅井 昭

〔産業功労顕彰〕

寺林 正・堀 治・花井 忠昭・香西 信巧
八代 義一・佐武 正幸・大矢根 正春・伊藤 豊治
池田 功・松田 弘・内田 靖生・横野 誠治
佐野 進・故 上牧 博

〔教育文化スポーツ功労顕彰〕

田村 春夫・石橋 健
林 千代美・中野 吉晴
故 木山郁雄

〔社会保健功労顕彰〕

関 武・坂川 玲子
嘉野 利己・工藤 義孝
能登 大助・伊藤 数子

〔防災功労顕彰〕

福士 和江
高野 照雄・西田 清一



〔防災関係〕

越後 幸夫 (苦前)

水難救助員としてとして50年以上勤続し、防災業務に尽くした。

杉本 司 (力昼)

水難救助員としてとして40年以上勤続し、防災業務に尽くした。

◆善行表彰

関 武志 (古丹別)

町の公益のため、多額の金品を寄附した。

◆感謝状

〔寄附〕

上牧 慶子 (古丹別)、大川 正明 (三溪)

前田 久義 (栄浜)、矢作 精教 (東京都)

町に寄附をし、町政の振興に寄与した。

〔在住80年以上〕

白府 ネノ (古丹別)、丹羽 知市 (古丹別)

鴨田 トミ子 (長島)、大矢根 輝美 (旭)

大橋 亘 (小川)、工藤 吉太郎 (古丹別)

伊藤 サチ子 (古丹別)、佐藤 悌二 (苦前)

山田 一實 (苦前)、古谷 勇 (豊浦)

川尻 時子 (古丹別)、川村 實 (苦前)

成田 義則 (旭)、米村 粕一 (力昼)

伊藤 和子 (古丹別)、堀 豊 (長島)

小泉 知子 (旭)、池田 功 (古丹別)

石川 トシ (苦前)、水野 順子 (東川)

成田 洋子 (九重)、福士 和江 (古丹別)

丹羽 貞子 (長島)、福原 福蔵 (古丹別)

佐武 勇 (古丹別)

齋藤 末松 (上平)

齋藤 キヌ (力昼)

小澤 梅子 (古丹別)

千田 芳子 (力昼)

寺林 正 (旭)

松原 義孝 (九重)

橋本 三夫 (古丹別)

玉川 カ子 (古丹別)

苦前町内に80年以上在住し、家業等を通じ町の発展に貢献した。



平成22年度苦前町表彰

◆功労表彰

〔自治功労者〕

野崎 信輝 (苦前)

選挙管理委員会委員として12年余に亘り、選挙事務の管理、適正執行に貢献した。

〔社会保健功労者〕

竹橋 隆至 (苦前)

人権擁護委員として21年余に亘り、基本的人権の擁護、自由人権思想の普及高揚に貢献した。

◆勤続表彰

〔自治関係〕

瀬川 信昭 (苦前)

交通安全指導員として10年以上勤続、交通安全運動の推進に尽くした。

〔社会福祉関係〕

伊藤 せつ子 (苦前)

社会厚生委員として10年以上勤続し、地域社会及び住民福祉の増進に尽くした。

町民作品展・図書室フェスティバル

10月29日(金)～31日(日)までの3日間、公民館で町民作品展と図書室フェスティバルが行われ、期間中約670名の来場があった。

町民作品展の内容は、町内の各文化団体・サークルや保育所・学校、個人などあわせて299名、約509点の展示コーナーのほか、子ども用品のリサイクル広場や親子人形劇、カンガルススクール「うどんづくり」などの催しのほか、住民の方が文化団体・サークルの活動を気軽に体験できるコーナーとしてよさこい、エコクラフト、陶芸なども団体の主催で同時に実施された。

親子人形劇では、札幌市内で活動する人形劇団4組が出演、人形劇やパネルシアターが上演され、親子連れ50人が楽しいひとときを過ごしていた。



また、図書室フェスティバルでは、図書室サポーターによる読み聞かせなどのおはなし会や新刊図書の一斉貸し出し、古くなった図書を無料でもらえる本のリサイクル市、図書室サポーターが段ボールでおうちやシステムキッチン、舟などを作って設置した遊べる図書室、工作教室などを実施した。

おはなし会では、手遊び・大型絵本「にじいろのしまうま」、「三びきのこぶた」のエプロンシアター、ロール絵本「きょうはみんなでクマがりだ」などが上演され、子どもと一緒に見ていた保護者も笑いの中にもときには真剣になるなど、絵本の世界に引き込まれていた。



芸術の秋を楽しむ！ 町内で様々な文化事業が開催される

町民舞台発表会・留萌地方道民芸術祭

11月6日(土)公民館で町民舞台発表会が開催され、約320名の来場者がいろいろなジャンルの舞台を楽しんだ。

今回の出演は10団体121名で、苫前・古丹別小学校が2学年ずつ、苫前・古丹別中学校吹奏楽部合同で1つと出演団体の半分が町内の児童生徒で占められた。その児童生徒の中でも注目を集めたのが、苫前小学校3年生による「花笠音頭」と古丹別小学校5年生の「南中ソーラン」。花笠音頭では、前半の太鼓での力強いパチさばきと後半の花笠音頭のキレのある動きのギャップに会場から笑いがあふれていた。また、南中ソーランでは全23名によるダイナミックな動きと迫力に会場から声援と拍手がとんでいた。



苫前・古丹別中学校吹奏楽部合同による演奏では、両中学校とも3年生が退部したあとの新体制で行われたが、「サウダージ」と「ONE LOVE(ワンラブ)」の2曲を演奏した。

一方、文化団体・サークルも負けずに出演、トップバッターを務めた大正琴苫前町同好会は、「知床旅情」ほか3曲を演奏、大正琴にマッチした曲調を会場に響かせ、苫前鱗萃会は、札幌の本祭で披露した「2010風の旅人」ほか2曲を演舞。迫力ある力強い踊りを披露した。今年30年を迎えたクリスタルコーラスも「霧と話した」ほか3曲をやすらぐハーモニーで聞かせた。古丹別カラオケ愛



好会では、5名がエントリー自慢のノドを披露。ラストは苫前民謡千鳥会による「能登麦屋節」など6曲が披露され、その歌声に安らいだ雰囲気会場に流れていた。

また、11月12日(金)～14日(日)には同会場で北海道文化団体協議会主催の平成22年度留萌地方道民芸術祭展示部門が、同月14日(日)には同芸術祭舞台部門が開催された。

展示部門には増毛町から天塩町までの8市町村が出品、本町からは陶芸の会と絵画サークルが作品を展示し、来場者の目を楽しませていた。

さらに、舞台部門には増毛町から遠別町までの6市町が出演、本町からは苫前鱗萃会、大正琴苫前町同好会、クリスタルコーラスの3団体が出演、他市町に負けない演舞、演奏、歌声を披露していた。



環境のために自分たちができるところを考えよう ～とままえ町民講座第2回目～

新エネルギーが地球環境保全に果たす役割と個人や地域生活の中にエコロジーを取り入れるための学習機会を目的に行われているとままえ町民講座の第2回目が、11月2日(火)公民館で開催され、約25名が受講した。まず、北海学園大学経済学部の小田清教授より「地球環境と新エネルギー」として講演が行われた。

世界的に地球環境問題に関する協議が行われた流れや環境保全と地域政策の両立としてエコビジネスの可能性についての説明をした後、地域資源循環型の



の地域経済振興として標茶町ゼロ・エミッション研究会の事例を紹介、産業廃棄物のリサイクルに結びつけ新産業の創出したこと、町も地域づくりの中に環境保全と廃棄物処理を結びつけ、総合計画に盛り込んでいることや、産・官・学が連携して研究会を立ち上げている状況を詳しく説明した。

その後、ワークショップ「地球環境のために私達ができること」として社会教育課の宮前伸之係長がファシリテーターとなり、参加者がグループに分かれ、地域で環境のためになっていないこととその原因、その事案を解決するために自分たちができるところを発表し合い、環境に対する考えを深めた。



自分でつくる!きれいに詰めるお弁当にチャレンジ! ～こども料理教室～

子ども自らが食と健康を考え、食生活の自立を目指すことを目的に、文部科学省の委託を受け開催されている町食育推進検討委員会主催の栄養教諭を中核とした食育推進事業のこども料理教室の2回目が11月3日(水)公民館で開催され、町内の小学校4年生から中学校3年までの21名が参加、お弁当づくりにチャレンジした。

今回は、「栄養バランスのとれたお弁当の詰め方を考える」として、主食のごはんが2分の1、主菜が6分の1、副菜2つで3分の1となるよう自分のすきなおかずを弁当箱に詰めていく方法で行われた。

古丹別小学校の木田聖子栄養教諭よりお弁当への詰め方講座として、詰め方の順番、バランスのよいお弁当とはの説明のあと、主菜として鶏肉のはちみつしょうゆ焼きほか2品、副菜としてポテトサラダ、かぼちゃの煮物ほか4品、主食としてごはんかわかめごはんを選択、どのように盛りつけるかを絵で作成した。

生活技術研修室ではおかずの調理を行った後、自分で作成した絵をもとにお弁当に詰める作業を行い、そのお弁当を参加者全員で試食したが、バランスを考えたお弁当づくりの大変さを実感できたようだ。



搾乳ロボットを導入したフリーストール型牛舎をお披露目 ～伊藤克司牧場新牛舎～



11月7日(日)に香川の伊藤克司さん宅の牛舎が新築され、建設関係者や近隣の酪農家などを招いてお披露目会が開催された。

この牛舎には、最新型の搾乳ロボットが設置され、このロボットのところで餌付けされるため、牛が自らこの場所にきて自動的に搾乳されるもので、機械の洗浄時間を除けば約22時間は搾乳が可能となるもの。牛1頭1頭にはリスポンダーと呼ばれる個体を認識できる首輪を装着しているため、どの牛がどのくらい搾乳しているかなどもパソコンで管理でき、管内では2ヶ所目の導入となる。また、牛舎内はフリーストールと呼ばれる牛をつながず自由に歩き回れるスペースがあり、牛が休むストールと呼ばれるところはパイプで1頭ずつ仕切られており、牛の休憩スペースが混みあわないことから牛舎内が清潔に保てるのが特徴だ。牛からの排泄物もバー

ンスクレッパーと呼ばれる機械で1ヶ所に集めることができる。その排泄物も1ヶ所に集めて肥料として自宅や近隣の家で使用するとのこと。

お披露目会では、家主の伊藤克司さんからの挨拶の後、施設の説明が行われ、建設関係者と近隣酪農家の方とともに、お披露目を祝して乾杯が行われ、伊藤ファミリーの益々の活躍を祈念して宴が催された。

現在、伊藤さんでは140頭の牛を飼育しており、翌日から40頭をメドにこの牛舎に入れ、訓練をするとのこと、妻のまち子さんは「現在、搾乳や清掃などの作業に1日8時間はかかるが、今回の機械の導入などで約半分程度まで見込める。私たちの取り組みが他の酪農家により影響を与えられれば」と話した。



フェスティバルin苫小

11月6日(土)苫前小学校(八谷芳博校長)でフェスティバルin苫小が開催された。

3~6年生の各学年ではお店として「ホタテキャッチ」や「玉・発射」など趣向を凝らした店が出店され、体験する人であふれていた。

また、PTAのお店では懐かしの遊びやわりばし鉄砲的当て等のコーナーも設置、児童に人気を得ていた。



古小フェスティバル

11月7日(日)古丹別小学校(岩村直幸校長)で古小フェスティバルが開催された。



全学年を縦割りに6班編制で「古小ラウンドワン」や「縁日」など催しに保護者や地域の人が列を作って楽しんでいました。

PTAによる喫茶店や焼き鳥の販売、ドーナツの配布などに行列ができていた。

苫前保育園おゆうぎ会

11月13日(土)苫前保育園(青木久美子園長)のおゆうぎ会が同保育園で開催され、桃組から藤組までの40名の園児たちが元気いっぱい、歌やゆうぎを披露した。

かわいい衣装に身を包んだ園児たちが、元気に踊り、歌う仕草に会場で見ている保護者や祖父母も目を細めて、しきりに声援や拍手を送っていた。



ぼくたち・わたしたちも まげずにうたい・おどります!



古丹別保育所お遊戯会

11月21日(日)古丹別保育所(川森のり子所長)のおゆうぎ会が公民館で開催され、赤組から青組までの40名の園児たちが大きなステージで元気ハツラツの歌や踊りを披露した。

かわいい衣装や元気な動きのほか、途中で泣いてしまったり、滑って転んだりの様子に保護者や祖父母も目を細め、拍手を送っていた。

自分の身は自分で守る! ~実践型交通安全教室~

実践的で効果の高い交通安全教育を体験により学んでもらうことを目的に、11月11日(木)公民館で実践型交通安全教室が開催、町内の高齢者約45名が参加した。

挨拶で森町長は「常に危機意識をもち、事故を起こさないという気持ちで過ごしていただき、皆さんが交通安全リーダーとして活躍していただきたい」と述べた。羽幌警察署の赤坂清孝地域交通課長の講話のあと、高齢歩行者教育システムを使った道路横断訓練と、自転車シュミレーターを使った道路走行訓練が行われた。

自転車シュミレーターを使った道路走行訓練では、まちの中の交差点や学校周辺の道路を走行する想定で車や歩行者と接触しないよう左右や後ろを確認して走行させるものだが、車や歩行者と接触してしまう方や家の塀にぶつかってしまう参加者もいて、笑いの中にも安全な走行の難しさを体験できたようだ。



文化協会・体育協会表彰と交流の集い



11月19日(金)とままえ温泉ふわつとで文化協会・体育協会表彰と交流の集いが両協会会員、来賓をあわせ約120名の参加で開催された。活動で功績のあった方として文化協会では2団体3個人、体育協会では1団体2個人が受賞、表彰された。森町長の祝辞の後、文化功労賞を受賞した小野好さんが受賞者代表して謝辞を述べた。

アトラクションでは文化振興賞を受賞した苫前クリスタルコーラスのハーモニーマも披露、受賞者のお祝いと互いの協会の交流に華を添えた。受賞者は次のとおり。

文化功労賞：小野好
文化振興賞：斎数範章
文化振興賞：苫前クリスタルコーラス
文化特別賞：宮本アサエ

文化特別賞：苫前北斗歌留多クラブ
渡辺育史
蟻戸敏央
前田玲

スポーツ功績賞：松浦隆史
スポーツ功績賞：長嶺雄司
スポーツ特別賞：古丹別サンダース

冬期間除雪委託業者決定 除雪作業にご協力を！

冬を快適に過ごすため、169路線（94キロ）の生活路線や公共施設、産業道路の除雪を実施しますので、次の点にご注意いただき、ご協力願います。

- 早朝から除雪を開始し、午前7時完了予定ですが、大雪や吹雪で遅れることもあります。
- 原則、緊急時以外は午後7時以降の除雪は行いません。ただし、急病患者など緊急を要するときは、役場建設課又は道路維持管理事業協同組合へ連絡願います。
- 路上駐車や公共施設駐車場への夜間駐車は、除雪作業の妨げとなりますので、車庫等へ移動願います。
- 町が指定している場所以外の民地の空き地の雪は、除雪しませんので、皆様のご理解をお願いします。
- 除雪や排雪時に支障となる箇所へはポール等の目印を設置願います。

除雪期間は、翌年3月25日まで。委託される除雪業者は次のとおりです。

◇昭和・旭地区 山本建設工業(株) ☎65-3141	◇南長島・香川地区 苫前建設工業(株) ☎65-3488
◇旭・四線沢地区 (有)大川商店 ☎65-3035	◇北長島・九重地区 橋場建設工業(株) ☎65-3236
◇苫前地区 千葉建設(有) ☎64-2819	◇古丹別地区 渡部工業(株) ☎65-3055
◇港・三豊地区 千葉建設(有) ☎64-2819	◇小川・岩見・東川地区 林商会 ☎65-3304
◇北香川・上平・力屋地区 (有)北進産業 ☎64-2152	◇小川地区(防災ダム道路) 林商会 ☎65-3304
◇幹線道路(旧直営路線) 山本建設工業(株) ☎65-3141	◇三溪地区(苫前ダム道路) ハラダ工業(株)苫前支店 ☎65-3702
橋場建設工業(株) ☎65-3236	

除雪のお問い合わせは

苫前道路維持管理事業
協同組合(渡部工業(株)内)
☎65-3055
苫前町役場建設課土木係
☎64-2315

地域社会貢献事業

まちの施設を整備していただきました

ハマボウフウほ場杭打ち・育苗畑の造成

ハマボウフウは、食用・薬用として珍重されてきたが、自生数が減少し、消滅が危惧されていることから、留萌振興局でも復活活用チームを設置し、資源復活を図っている。

10月29日(金)古丹別側河口付近・風車の丘公園で橋場産業株式会社(橋場幸一社長)が地域貢献事業としてハマボウフウ実証ほ場周辺への杭打ちとの海岸移植用の苗を育てる畑の造成作業を行った。

本町の海岸でもたくさんハマボウフウが育ってくれるでしょう。ありがとうございました。



九重コミュニティセンター敷地の整地 古丹別歯科診療所住宅テラスの撤去

道道力屋九重線工事を実施している株式会社阿部工業(柿崎敏社長)が11月1日(月)九重コミュニティセンター敷地の整地を、同月4日(金)古丹別歯科診療所住宅テラスの撤去を地域貢献事業として実施した。



同センター敷地は、ぬかるんだ地面を車が通り、わだち状になっていました。また、同診療所住居のテラスも長年の使用で腐食していましたが、きれいに処理していただきました。ありがとうございました。

役場庁舎内障がい者用トイレ・機械室ポンプの修理

役場庁舎のボイラー改修工事を行った日進設備工業株式会社(松浦淳社長)が、庁舎内の障がい者用トイレ・機械室ポンプの修理を10月20日(水)に地域貢献事業として実施した。

長年の使用で痛んでいた箇所も申し出のお陰で整備され、利用者の方も安心して使うことができました。ありがとうございました。



サクラマス発眼卵埋設放流

古丹別川広域河川改修工事を行っている萌州建設株式会社古丹前支店(秋山貴人取締役支店長)がサクラマスの発眼卵の放流を11月8日(月)に社会貢献事業として実施した。

同事業は平成18年度から継続して行われ、本年もサクラマスの発眼卵約25万粒を古丹別川支流に放流した。

放流した卵が元気に育ち、また苫前町に戻ってくることを祈ります。ありがとうございました。



お知らせ 年末年始の町内各施設・機関の業務

年末年始の町内各施設・機関の業務については、下記のとおりとなっております。
なお、ご不明な点などありましたら、各担当窓口までお問い合わせ下さい。

ごみ収集車の運行

年末：12月30日（木）まで平常どおり収集
年始：1月4日（火）から平常どおり収集

【お問い合わせ】

町民課けんこう係
☎ 64-2215



し尿くみ取り業務

年末：12月25日（土）まで平常どおり営業
年始：1月6日（木）から平常どおり営業
12月15日以降の申し込みについては、年内のくみ取りができない場合がありますので、お早めにお申し込みください。



歯科診療所の診療

年末：12月29日（水）古丹別 } いずれも
28日（火）苦前 } 午前まで診療
年始：1月5日（水）古丹別 14時から診療
6日（木）苦前 午後から診療
〔休診日〕12月30日（木）から
1月4日（火）

【お問い合わせ】

町民課けんこう係
☎ 64-2215

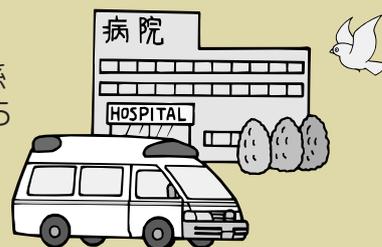


患者輸送車の運行

年末：12月29日（水）まで平常どおり運行
年始：1月4日（火）から平常どおり運行
〔運行休止日〕
12月30日（木）から1月3日（月）まで

【お問い合わせ】

町民課けんこう係
☎ 64-2215



ななかまどの館公衆浴場

年末：12月30日（木）まで平常どおり営業
31日（金）午前11時から
午後3時まで営業
年始：1月4日（火）から平常どおり営業

【お問い合わせ】

ななかまどの館
☎ 65-4351

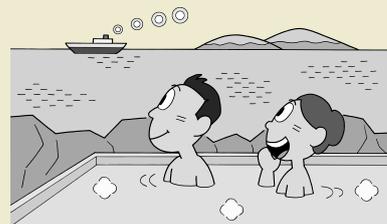


とままえ温泉ふわっと

年末、年始は平常どおり営業。

【お問い合わせ】

とままえ温泉
ふわっと
☎ 64-2810



苦前町公民館・図書室・福祉センター・スポーツセンター

●公民館・福祉センター

年末：12月30日（木）まで平常どおり
年始：1月6日（木）から平常どおり

●公民館図書室

年末：12月30日（木）まで平常どおり
年始：1月6日（木）から平常どおり

●スポーツセンター

年末：12月30日（木）まで平常どおり
年始：1月6日（木）から平常どおり



【お問い合わせ】

教育委員会社会教育課
☎ 65-4076

